

地域における 障害者自立支援機器の普及促進の取組事例

千葉県

千葉県千葉リハビリテーションセンター
福祉用具展示室

千葉県千葉リハビリテーションセンター
地域連携部 地域支援室

1. 地域の概況と取組の経緯

【概況】

首都圏の東側に位置し、太平洋に突き出た半島。南東は太平洋に面し、西は東京湾に臨む。北西は東京都と埼玉県に、北は茨城県に接する。

面積は全国28位、人口は全国6位。54市町村（37市16町1村）。政令市として千葉市、中核市として船橋市、柏市がある。

教育機関は、特別支援学校が33校（他分校・室7校）。県立の盲学校と聾学校が各1校。



【人口】6,229,358人（平成28年4月1日現在）

【面積】5,157.65km²

【障害児・者の人数 平成28年3月31日現在】

身体障害児・者：183,469人（身体障害手帳所持者数）

知的障害児・者：74,327人（知的障害者名簿登録数と療育手帳所持者数）

精神障害児・者：107,827人（自立支援医療受給者数と精神障害者保健福祉手帳所持者数）

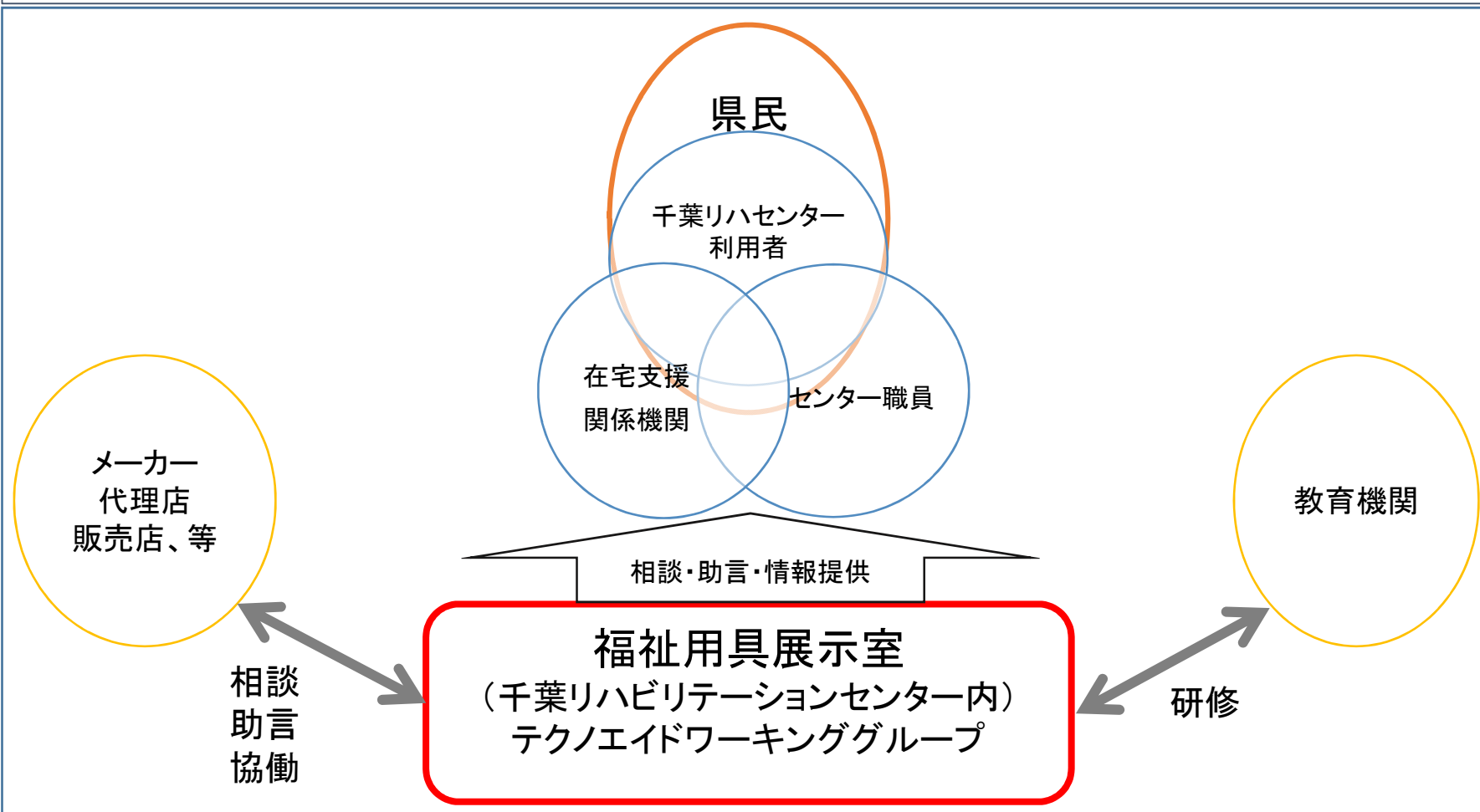
【取組の経緯】

福祉用具展示室は、千葉県千葉リハビリテーションセンター改革プランにおけるテクノエイドセンター機能の付加に資するため、障害児・者の生活、学習及び就労並びに高齢者及び傷病者の生活及び介護の支援を目的とし、平成23年4月に開設された。

現状は、当センター利用者の地域生活移行支援のための活用を軸として運用をしているが、将来的にはセンター利用者以外の県内障害児・者に対しても、そのノウハウを還元できるように、また外部への研修機能を付加して地域リハ資源として必要な情報の集約と配信も併せて行っていくことを目指している。

2. 支援体制 ～全体像～

福祉用具に係る県立の常設展示室・相談機関が無い中で、リハビリテーションセンター内に医療施設併設型の展示室として設置。現在は、入院患者の退院支援とそのことを通じた中間ユーザーへの情報発信を中心に、その他、対外的な研修やメーカー等からの依頼があった場合の助言等を行っている。



3. 福祉用具展示室の機能

【福祉用具展示室概況】

展示数	面積	構成職員
208点	93.3m ²	理学療法士 7人 作業療法士 5人 看護師・義肢装具士・生活援助員・ ソーシャルワーカー 各1人 (但し、展示室張り付き職員は配せず、テクノエイドワーキンググループとして対応)



【特色】

- 県立の常設展示室が無い中で、リハビリテーションセンター内に単独事業として設置。
- 運営は、展示室に張り付きの職員を置かず、センター内の各所属から選出されたメンバーによるテクノエイドワーキンググループ(以下WG)が対応。
- センター内向け、対外的な研修事業にも活用。

4. 機能

① 臨床現場での活用

- 福祉用具展示室を臨床現場とリンクした活動を展開。福祉用具等を用いた在宅退院支援に活用。
- センター利用者には、担当する理学療法士や作業療法士等の職員の同伴での利用が原則。但し、対応困難な場合は、WGのメンバーがフォローアップする体制となっている。
- 臨床で利用するロボットの取り纏めをWGのメンバーが担当。臨床への情報提供や外部研修等も務めることで、より実地的な情報提供が可能となる。
- シート式の体圧分布測定器の管理を通し、入院患者の車椅子、マットレス、ベッド等の評価・支援等にも関与。

② 県民、関係機関への活用

- 県内大学の学生への授業も実施。後進の育成も行う。
- WGのメンバーが外部からの依頼研修を対応。
- メーカー等から依頼があった場合、商品評価及び開発助言等も適宜実施。
- 当センターで実施する各種講習会等でも、メーカー等の協力を得て、県民や関係機関に対する情報提供等を実施。



5. 設備・展示品

種目	種類	種目	種類
【特殊寝台・付属品】 ベッド、サイドレール、 ベッド用グリップ、 スイングアーム介助バー等	21種	【車椅子】	12種
【マットレス、褥瘡予防マット】	21種	【車椅子クッション】	10種
【座位保持用具】	1種	【車椅子付属品】 バックサポート等	10種
【体位交換器】	5種	【段差解消機】	1種
【手すり】	3種	【移乗用リフト】	3種
【歩行車】	5種	【移乗用吊り具】	21種
【移乗補助用具】 移乗用ボード、シート、マット、 ベルト、パッド等	43種	【入浴補助用具】 バスリフト、浴槽台、 バスボード、浴槽用手すり、 水回り用車椅子、 シャワーベンチ等	11種
【排泄補助用具】	1種	【環境制御装置・スイッチ等】	21種

【機器の入手・更新方法】

- メーカー及び代理店に協力をいただき、多くを貸与により展示。さらに、メンテナンスへの協力もいただいている。
- 在庫は抱えないようにし、新機種があった際には、入れ替えを行う。
- 入院患者が利用する車椅子・車椅子クッションについては、センター内で別途レンタル制度を運用中。

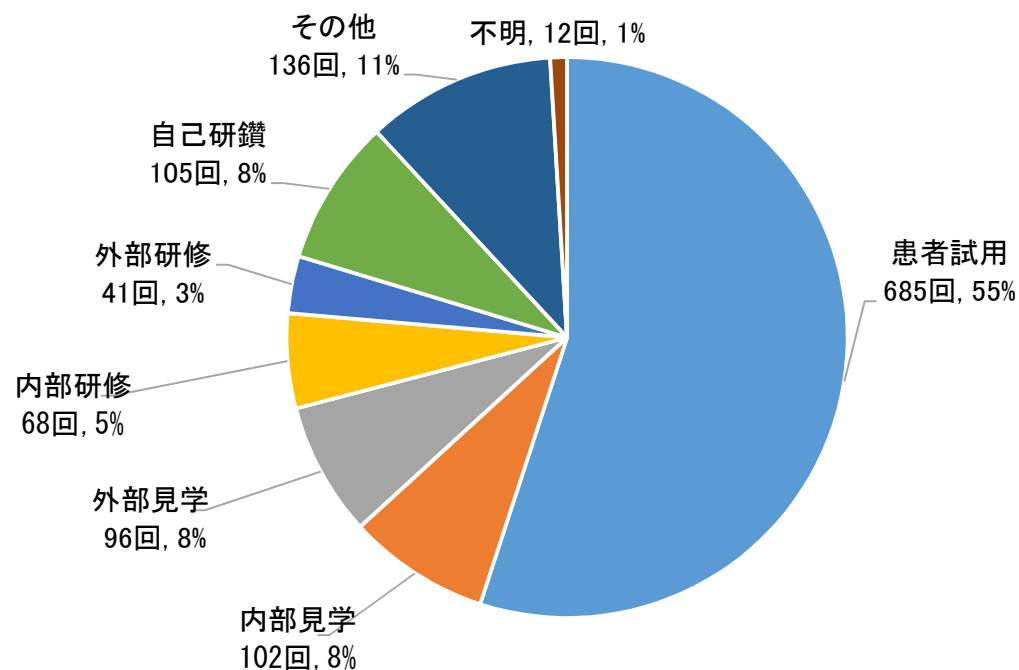


6. 取組による効果(福祉用具展示室の運用実績)

●平成23年～27年度(開設から5年間の実績)

- 利用回数は計1,245回。
- 延べ利用者数は4,084人。
- 職種別利用はPT 773回(62%)、OT 226回(18%)、Nrs 57回(4%)。
- 目的別利用回数は患者へ試用685回(55%)、自己研鑽105回(8%)、内部見学102回(8%)、外部見学96回(8%)、内部研修68回(5%)、外部研修41回(3%)。
- 試用物品は、リフトと車いすが共に175回(14%)、入浴用具96回(7%)、マットレス76回(6%)。

平成23年～27年度 福祉用具展示室の目的別利用実績



●平成27年度(単年度)

- 利用回数:計316回。
- 延べ利用者数:1,195人。
- 職種別利用
PT198回(63%)、OT60回(19%)、Nrs15回(4%)。
- 目的別利用回数
患者へ試用155回(49%)、自己研鑽29回(9%)、内部見学16回(5%)、内部研修26回(8%)、外部見学25回(8%)、外部研修8回(3%)
- 試用物品
リフト62回(20%)、車椅子59回(19%)、移乗用具29回(9%)、入浴用具24回(8%)。

6. 取組による効果と今後の課題・展望

●取組効果

1. 入院初期から適切な福祉用具を使用する事で患者の自立支援、スタッフの介助負担軽減に繋がった。
2. 早期に福祉用具を導入する事で患者・家族の福祉用具への抵抗感をなくすことができ、在宅生活における福祉用具の導入がスムーズになった。また、退院支援の際に在宅で利用出来る福祉用具を試用出来るため、より具体的な生活をイメージしやすくなった。
3. 院内スタッフの福祉用具に対する知識・技術が向上し、病棟での適切な利用や新たな福祉用具の購入につながった。
4. 臨床におけるロボットの活用その他、シート式の体圧分布測定器の運用とマットレス選定等を通し褥瘡管理に寄与した。

●今後の課題・展望

1. 過去5年間の実績において、対外的な研修が41回、見学が96回の実績はあるが、今後はより一層全県を視野に入れた研修・情報提供機能、そしてその効果検証を併せた機能の充実を行う。
2. メーカー等から依頼があった場合に商品評価及び開発助言等も適宜実施しているが、これらをシーズ・ニーズのマッチング機能に発展させる仕組みづくりが必要。
3. 具体的な商品開発に係る研究機能の付与が課題。